【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1（小・中）

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立勧興小学校

1　前年度 評価結果の概要	・職員集団が学校評価の重点取組みをよく理解することで、同じ方向を向くことができた。 ・「自分で問いをもち、学び続ける児童」を育成することを目標に、校内研を通して教職員が学び続けたことで、つけたい力を明確にした授業づくりを進めることができた。県学習状況調査では、「思考力・判断力・表現力」の向上が見てとれた。 ・多様な人物や価値観との出逢いを通して、多様性を受け入れ自他ともに大切に考えられる教育を展開することができた。 ・「勧興皆一家」を掲げる地域に支えられた環境の中で、自分らしさを誇り、自立へ向かう子どもの支援を充実させることができた。 ・業務改善、教職員の働き方改革については、改善はみられるものの、今なお課題が残る。職員自らの改善策を募り、ボトムアップで業務改善を進めるなど、今まで以上の工夫が必要である。
2　学校教育目標	ふるさと勧興を誇りに　個性と創造性に富む子どもの育成 ～勧興魂「勉強はベストをつくし　運動はくたくたになるまで」を校是として～
3　本年度の重点目標	○学力向上の推進…「自分で問いをもち、学び続ける児童」つけたい力を明確にした授業、価値ある家庭学習への転換 ○豊かな心の育成…「多様性を受け入れられる子ども」市民性を育む教育の推進、多様な人（価値）との出逢いの促進 ○基本的生活習慣の確立…「健康や体力の向上を目指す子ども」ゲーム・インターネットとの自律した関わり、歩いて登下校 ○特別支援教育の充実…「自分らしさを誇り、自立へ向かう子ども」アセスメントの徹底、個に応じた指導の充実、自立活動の充実

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学習内容の定着に向けて「学習課題」を設定する授業実践（年間2回以上）	○学年で選択した教科・領域において、「学習課題」を設定する授業公開を年2回以上行う ○公開授業後の研究会実施（100%）	A	・学年で選択した教科・領域において「学習課題」を設定した授業を実践し、一人2回の授業公開を行った。 ・授業公開後には、授業研究会を100%実施できた。 ・単元を見通した学習活動を行うことで、学ぶ意味を理解しながら学習に取り組ませる意識が高まった。	A	・学習課題を設定する授業実践の数値目標や授業公開は実施できていて、成果目標を達成している。 ・学習課題とは、「単元を通してどんなゴールにたどり着くのか？」と意識しながら学習を進めることと聞いて、授業の質を向上させる努力がなされていると感じた。
	○一人一台のタブレットを有効活用した授業実践	○「各学年で身につける操作スキル」当該学年の技能習得の指導　100% ○プログラミング教育全体計画の当該学年の指導内容の履修　100%	○GIGAタイム、チャレンジタイムの確実な実施 ○ICT利活用推進のための教職員向けミニ研修の実施（年10回）	A	・児童の操作スキル向上のためのGIGAタイムを月２回以上実施できた。 ・基礎基本の定着を図るため、毎週月曜日にICT機器を利用した復習ドリル（チャレンジタイム）に取り組ませた。 ・ICTミニ研修（個別伝達、Teamsでの情報共有等を含む）を10回以上実施した。	A	・小さいうちからデジタルに慣れ親しんで、文房具のように普通に使えてあたりまえの感覚になると、子どもから大人が習うことも考えられ、社会に広まっていくことが期待できる。 ・漢字を書いて覚えたり、辞書を引いて調べたり、アナログでこそ身に付く力もある。デジタルと紙（アナログ）のよいとこどりをして、バランスよく活用することも考えて欲しい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○多様な人物や価値観との出会いから、自分事としての振り返りができる児童85%以上	○ゲストティーチャー等を招き、多様な人物や価値観との出会いを教育課程に位置づけ、価値ある学びを作る	A	・人権ふれあいコンサートの実施を確実に行った。また、上学年、下学年に分けて実施したことで、年齢相応の話を聞くことができた。 ・今年度はコロナ明けにより地域合同で新しい形の運動会を予定していたが、雨天により学校、地域別々の開催となった。 ・クラブ活動等で地域の方を招聘し、価値ある学びを作っている。今後も、この活動を継続していく。	A	・地域の団体や人と連携することで、体験や経験を積むことができている。 ・コンサートにおいて、歌や話（体験談）等、臨場感ある生の歌声と心の声（ことば）を聞くことができたことは、良かったと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○児童、保護者へのアンケートを毎月確実に実施し、管理職・学年で対応する教師90%以上	○確実で丁寧なアンケートの対応 →アンケート実施月内に、聞き取り、解決に導く	A	・全ての職員が「児童、保護者へのアンケートを毎月確実に実施し、管理職・学年で対応する」と回答している。月１回のアンケートを確実に行い、細かい変化にも早めに気づき対応できている。担任を中心にすばやく聞き取り、学年等で対応を相談して、問題の解決に繋げている。	A	・月１回のアンケートを行い、担任だけでなく学年や学校など組織全体で対応できて、複数人での相談体制が整っている。 ・複数担任制は、勧興小の伝統となっていて、長く続いている。先生方の負担になっている面もあるだろうが、その成果がきちんと出ているように感じている。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	○校内研修を通して、QUアンケートの集計結果を基に学級のアセスメントを行う。 ○学校評価アンケートに質問項目を入れて集計をする。 ○教科横断的な視点でキャリア教育を推進する。 ○学期ごとのめあてや振り返りで児童のできるようになったことやこれから頑張りたいことについての項目を設け、自己肯定感を高める。	A	・QUアンケートを基に学校職員全体で分析を行い、学年・学級ごとの課題を見い出して改善に向けて取り組んだ。 ・キャリアパスポートを作成し、学期ごとに振り返りとファイリングを行うことで、児童の達成感や自己肯定感を高める機会をつくった。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は90%を超えている。「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は85%を超えている。	A	・数値目標を達成していて、90%を超えていることが素晴らしい。 ・児童と先生との距離感が近く、子どもと向き合う時間が取れている成果だと思う。来校した時に、よい雰囲気で教育活動が行えていることを感じている。
	◎ふるさと勧興を誇りに、自分の夢や目標について考える教育の推進	◎「勧興の良さ」を1つ以上回答できる1～3年生が80%以上 ◎「勧興を誇りに思う」と回答する4～6年生が80%以上	◎児童が地域に学ぶ場、児童の地域における活躍の場、「出番・役割・承認」の場を各学期に1回以上、教育課程に位置づける。 ◎「勧興読本」「さがの人物探検99」の活用	A	・5年生「ふるさと勧興」の地域学習、4年生の「キッズマート」の体験学習や勧興まつりなど、地域の方々と交流する機会を通して、地域のことを学んでいる。 ・月に1回勧興読本の日を設け、地域や佐賀の偉人について理解を深めている。 ・「勧興の良さ」を1つ以上回答できる1～3年生は75%を超えている。「勧興を誇りに思う」と回答する4～6年生は85%を超えている。	A	・「ふるさと勧興」や「勧興皆一家」等、地域資源を有効に活用し、地元愛を深めることに繋げていることが素晴らしい。 ・地域でも、「勧興読本」や「さがの人物探検99」等の編纂や改訂を重ね、教材として活用しやすいものとなるよう支援・協力していきたい。
●健康・体つくり	❶「運動習慣の改善や定着化」	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒90%以上	○昼休みに体育館を開放し、運動する機会を増やす。 ○徒歩通学の価値づけおよび奨励 ・全校朝会で啓発 ・学校だより、保健だより、学級だよりで発信 （それぞれ1回以上）	B	・昼休みの体育館開放による運動量の確保や徒歩通学の価値づけ、奨励については、学校全体での取り組みが不十分な部分があった。全校朝会で啓発し、学校だよりや学級だよりで周知を図ったが、1回だけでなく定期的に呼びかけを行い、徹底していく取組が必要である。 ・「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上」について肯定的な回答をした児童は79．9%であった。	B	・徒歩通学の徹底は、保護者の協力があってできるところもあるので、大変だと思う。肉体的、精神的に鍛えられるため、更なる価値づけの奨励を期待する。 ・昼休みは、運動場でよく遊んでいる。街中であるため、公園等の遊べる場所が少ないせいか、放課後、外で子供の姿を見かけなくなった。
	○ゲーム・インターネット・SNSの節度ある適切な使用	○端末を利用する約束を守っていると回答する保護者の割合が85%以上	○情報モラル等の問題を取り上げた学級指導を教育課程に位置付け実施する ○学級だより等で、保護者に諸問題に関する情報を提供し、啓発する。	A	・道徳や学活の時間を通して、インターネット利用に関する指導を行った。 ・毎月のなかよしアンケートでは、インターネット利用に関する項目を挙げ、児童の意識向上と家庭への啓発を行った。 ・「端末を利用する約束を守っている」について肯定的な回答をした保護者の割合は85%を超えていた。	A	・社会問題であり、保護者と連携した取り組みが必要である。 ・ゲームがオンライン化し、子どもたちは、集まることなくインターネットでつながっている。ゲームをしたりチャットで会話したり、人と顔を合わせて係わりながら学んでいく経験が乏しくなっている。 ・規制を強めるより、情報モラル・情報リテラシー・情報セキュリティーについて、子どもと保護者の意識向上が望まれる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	○18時以降の電話の禁止 ○健康観察アプリ「LEBER」での連絡対応（休日や長期休業の対応範囲の共通理解） ○提出期限ボードの活用 ○業務の効率化アイディアの共有 ○職員会議資料のデータ化 ○学期ごとに反省を行い、来年度に向けて行事の精選を行う	B	・職員の入替りが多く、一学期は新しい職場に慣れることに時間を費やしていた。具体的取組が定着するにつれ、全体的な時間外在校等時間は減少傾向にあるが、上限を超えない職員は、65～75%で推移している。 ・「効率的・効果的な業務の推進を心掛けている」について肯定的な回答をした職員は約85%であった。	B	・児童と向き合う時間を確保しながらの対応であり、大変だと思う。 ・調査や報告など、本当に必要なものと不要なものを、現場重視で精選して欲しい。現場からも声を上げて行かないと変わっていかないものだ。
	○探さない・切らさない・ためない整理整頓	○各箇所の整理整頓評価をA以上にする。 （S・A・B・C・D）の5段階評価	○安全点検の際に安全の視点とは別に整理整頓の視点で点検を行い、室管理者の声掛けで即時に改善を図る。	A	・職員作業などで時間を確保して、職員室・印刷室等、ものが整った環境づくりを心掛けた。また、安全パトロールや安全点検を機に安全面や効率化の面から整理整頓を呼びかけ、職員の意識向上に努めた。 ・「職場環境の整理整頓を心掛けている（S・A・B・C・DのA以上）」について肯定的な回答をした職員は約70%であった。	A	・整理整頓によって効率化を図ることで、組織の機能性や安全性を向上させ、職場環境が働きやすくなっている。このような環境を保っていくことが難しく、これからも大切になってくる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○個別の教育支援計画、個別の指導計画を具現化した教育課程の実施 ○個に応じた自立活動の充実	○個別の教育支援計画、個別の指導計画を有効に活用したと回答する職員80% ○学校のUDや合理的配慮について意識して取り組むことができたと回答する職員80%	○個別の教育支援計画を具現化した教育課程作成のための校内研修開催 ○校内の課題に応じた教職員研修の開催 ○児童の教育的ニーズに応じた学びの場の検討（支援会議の実施） ○個別の指導計画の効果的活用（毎週木曜日） ○校内教育支援委員会の計画的開催に向けた特別支援教育Co.の役割の明確化	A	・校内研修を実施（4月「配慮を要する児童への校内支援体制」「通級指導教室」，7月「自立活動」「UDの授業作りと合理的配慮」）し、職員の理解を深めた。 ・支援会議を3件行い、保護者と共に、適切な学びの場の検討を行うことができた。 ・毎週木曜日に定期的に個別の指導計画記入の時間を設定し、効果的な活用につなげることができている。 ・学校のUDや合理的配慮について、実践事例を報告し冊子等にまとめた。 ・「個別の教育支援計画、個別の指導計画を有効に活用した」と回答する職員は95%を超えている。「学校のUDや合理的配慮について意識して取り組むことができた」と回答する職員は100%であった。	A	・勧興小の特別支援教育は、歴史があるから、よい評判がロコミで広がっている。校区外からでも、勧興小で学ばせたいという希望が多い。 ・通常学級の児童も、交流を通して思いやりの気持ちが育っていて、自然な受入れ方が身に付いている。配慮や支援の必要な児童にとっても、よい環境が整っている。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学校評価の重点取組をよく理解し参画できたことで、職員集団が同じ方向を向いて教育活動に取り組むことができた。 ・「自分で問いをもち、学び続ける児童」を育成することを目標に、校内研を通して教職員が学び続けたことで、学習課題を設定し単元構成を意識した学習指導が定着しつつある。 ・コロナ禍の制限がなくなり、多様な人物や価値観と出会わせる機会が増えたため、多様性を受け入れ自他ともに大切に考えられる教育を充実させることができた。 ・「勧興皆一家」を掲げる地域に支えられた環境の中で、自分らしさを誇り、自立へ向かう子どもの支援を充実させることができた。 ・教職員の働き方改革について、ここ数年の業務改善策が浸透し、時間外在校時間が短縮され年休取得率の向上が見られ、一定の改善はみられるものの、今なお課題が残る。